

与良の小山家（江戸のはじめ／約400才）

このお宅は、江戸時代に与良の名主をつとめた家で、当時のままのりっぱな玄関、お庭に面した座敷(ざしき)があります。小諸藩(はん)のお殿様がときおりおとずれていたので、警戒(けいかい)が厳重(げんじゅう)です。玄関には中からだけ相手が見えるようなぞき戸があり、座敷の床(とこ)の間には、いざという時に殿様が身をかくすためのかくし扉(とびら)や、警備(けいび)の人がかかっている部屋もあります。

建物の大きさや、三角の切妻(きりづま)屋根、農家に似た部屋割りの形式などの点で、江戸時代初期の城下町の有力町人の家の形式をよく伝える貴重(きちょう)な建物です。



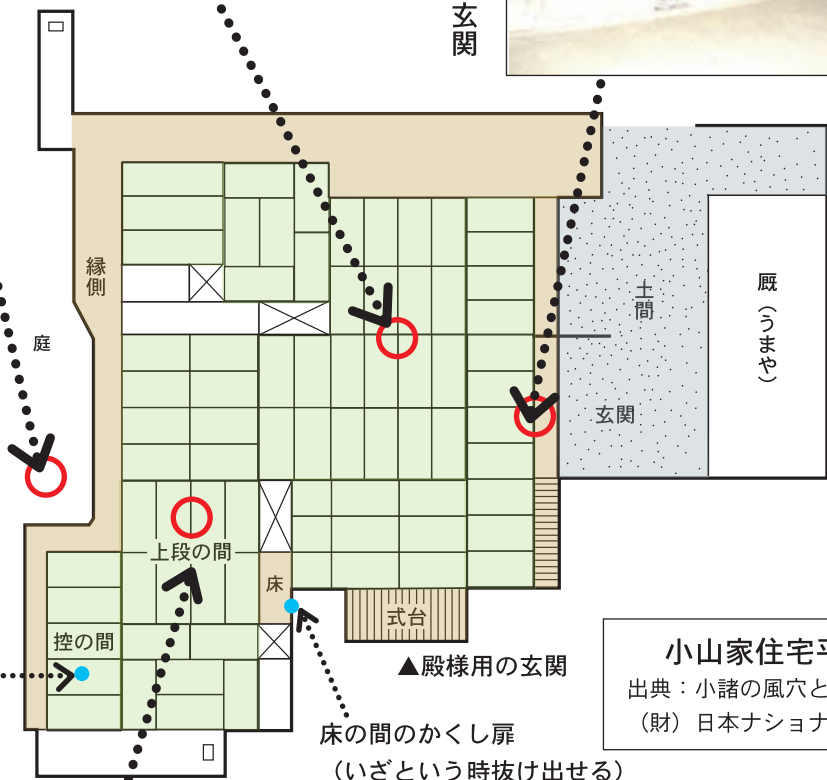
▲槍がかかっている



▶ 玄関



◀ 庭



家来の控え室

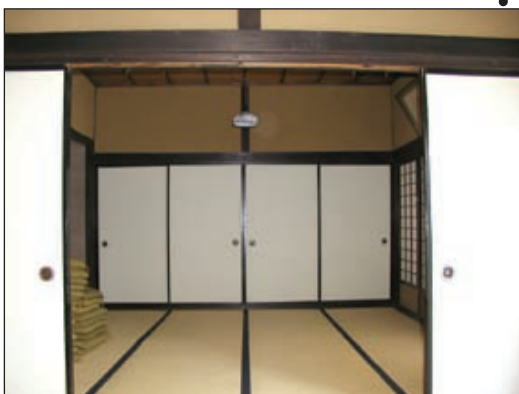
▲殿様用の玄関

床の間のかくし扉
(いざという時抜け出せる)

小山家住宅平面図

出典：小諸の風穴と町並みより
(財) 日本ナショナルトラスト

▼上段の間（殿様用の客間）



▼門と塀

